

—【ウィザス Athletics Club】「夢授業」を実施— テーマ：「アスリートから学ぶ 夢と目標設定」

2025年11月12日

株式会社ウィザス(本社:大阪府大阪市、代表取締役社長:生駒 富男)では、「ウィザス Athletics Club」のアスリート社員による地域・教育貢献活動の一環として、新潟産業大学附属高等学校にて「夢授業」を実施いたしました。

ウィザスでは2018年より公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)のトップアスリート就職支援ナビゲーション「アスナビ」を通じて、アスリート社員の採用をはじめました。現在、【ウィザス Athletics Club】として活動しています。

弊社においてアスリート社員は、不屈の精神や困難を乗り越える姿勢を体現し、社員全体に刺激と勇気を与える存在です。さらに、陸上競技を通じて夢と感動を届け、子どもたちが自分の夢に向かって進む力を育むとともに、企業の認知度とイメージの向上や、ダイバーシティの推進と組織の活性化、社会貢献活動を通じた企業の社会的責任を果たす一環として社内で高く評価されています。

当社はこれまで、新潟産業大学および附属高校のアンバサダーとして部活動指導や、柏崎陸上競技会への継続的な協力・参加などしております。また、地域のスポーツ振興や青少年育成への貢献活動を続けてまいりました。

今年はその取り組みをさらに発展させ、附属高校の1・2年生(計345名)を対象に「アスリートから学ぶ 夢と目標設定」をテーマとした授業を実施しました。

本プログラムは、「ウィザス Athletics Club」に所属する現役アスリート社員が、競技と仕事を両立しながら培ってきた経験をもとに、挑戦・成長・継続の大切さを語るキャリア教育です。

これまで主に第一学院高等学校(通信制)の生徒を対象に展開してきましたが、今回、初めて全日制高校での実施となり、アスリートによるキャリア教育の新たな広がりを示す取り組みとなりました。

講師を務めたのは、「ウィザス Athletics Club」所属の

- ・奥田啓祐選手(十種競技/2025年アジア大会 第3位)
- ・川口紅音選手(円盤投げ/2025年日本選手権 第3位)の2名です。

現役選手として競技と仕事を両立しながら挑戦を続ける両名が、自身の経験をもとに、「夢を描くこと」「目標に向かう過程」「努力を継続する力」について、生徒の皆さんへメッセージを届けました。



「夢授業」では、

- ・自分の「なりたい姿」を描く力
- ・小さな目標を積み重ねるプロセス
- ・継続するための自分との向き合い方

というテーマを中心に、生徒自身が「自分の言葉で目標を言語化する時間」も設けました。学年ごとに目標設定の慣れや具体性に差はあったものの、多くの生徒が自らの未来を考える“はじめての一步”を踏み出すきっかけとなりました。

子どもたちが自らの可能性を信じ、未来を描く力を育むために、教育的側面からの社会貢献をさらに推進してまいります。